

2025 年 9 月 17 日から 18 日にかけて開催された 2025 年度研究発表会において「飼育レッサーパンダの異常行動の発生割合と腸内マイクロバイオームの関連」というテーマでポスター発表を行いました。私は、飼育動物に見られる異常行動の発現要因を神経生理学的な観点から探ることを目的に、近年注目されている「腸脳相関」に着目して研究を進めています。本研究の遂行にあたり、他分野からの挑戦である私に一から丁寧にご指導くださった早川先生、日々のディスカッションや助言をくださった研究室の皆さま、そして糞便のサンプリングや行動観察などの調査にご協力くださった札幌市円山動物園の職員の皆さまに、心より感謝申し上げます。残り半年ほどの学生生活ですが、悔いのないよう研究に励み、ご協力くださった皆さまに良い成果をご報告できるよう努めてまいります。

私は昨年初めて本学会に参加し、今回は 2 回目の参加となりました。本学会の温かい雰囲気や活発な議論が大好きで、今年の参加を心から楽しみにしていました。

昨年初めて本学会に参加した際は、学部時代に微生物学を学んでいたこともあり、異分野である動物行動の研究での初めての学会発表には不安も多くありました。

しかし、発表の際には多くの方にお越しいただき、さまざまな視点から貴重なご意見を頂戴したことで、自身の研究を一層深めることができました。

また、他の方々の研究発表では多彩な研究内容に触れ、「このような課題があるのか」「こんな視点から研究されているのか」と、新たな発見や学び、そして研究の楽しさを再認識する機会となりました。

さらに、本学会を通じて他大学の先生方や学生の皆さま、動物園職員の方々など、動物行動の研究に関わる多くの方々と交流し、活発な情報交換を行うことができました。

ありがたいことに共同研究のお誘いもいただき、本学会をきっかけに研究の幅を広げる有益なつながりを得ることができました。

今大会においても、昨年知り合った方々とさらに交流を深められただけでなく、新たな出会いからも多くの刺激を受け、研究への意欲が一層高まりました。

今後も本学会で得た学びとつながりを大切にしながら、より良い研究成果を目指して励んでいきたいと思っています。

研究室に配属されたばかりの学生や、初めて研究発表に挑戦する学生の皆さんにとって、本学会は知見を深め、研究の視野を広げる最適な場だと思います！ぜひ来年度の大会に参加してみたいと思います。

最後になりましたが、2025 年度研究発表会の開催にあたり、素晴らしい運営に携わった関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

